

第58回トモエ肥連通常総会開催

去る6月25～26日、東京お茶の水の東京ガーデンパレスにおいて、エムシーファーターコム株式会社のいわき工場やときわ化研株式会社の商品を販売する特約店により構成されるトモエ肥料販売協同連合会の通常総会及び全国拡販推進会議が開催された。

第58回目となる当通常総会では、議長選出を受けた豊田理事長（豊田肥料㈱取締役社長）の進行のもと、第1・2号議案である平成23年度事業報告及び平成24年度事業計画が審議・可決された。併せて第3号議案である理事及び監事改選は、選考委員による指名推薦により理事・幹事候補が満場一致で承認された。この後引き続き行われた理

事会において米倉理事長（米倉商事㈱取締役社長）、五十嵐副理事長（㈱ネイグル新潟代表取締役社長）、植竹副理事長（㈱植竹虎太商店代表取締役社長）が選出された。

全国拡販推進会議では、肥料試験のデータ発表や新商品の説明が行われたほか、6月26日午前にはエムシーファーターコム株式会社 技術普及グループ長 佐野 正己氏の講演「肥料は何で決めますか？／鈴木千代吉先生講演テープより」が行われた。ここではトモエ化成の生みの親、鈴木千代吉氏の残された講演記録にもとづき、肥料は成分でなく中身、つまり肥効が重要であることが紹介された。午後には日本土壌協会会長 松本聡氏より「土づくりに『スリム化』はない」と題し、全国に見る土壌管理の現状に関する記念講演がなされた。以下松本会長の講演要旨をご紹介します。

記念講演要旨「土づくりに『スリム化』はない＝体がしっかりした土であれば、病気も放射能も問題がない」

総じて日本の水田土壌や露地野菜畑、果樹園では農家の労働力不足により堆肥の施肥量が減少傾向にある。水田土壌では塩基構成からみるとカリウムでは概ね適正範囲にあるが、カルシウムでは全水田の60%以上が過剰となっており、逆にマグネシウムは70%近くが不足しており、塩基バランスが崩れていると言える。施設野菜畑では堆肥施肥量の増加が見られる。その一方、露地野菜畑では施肥量が減少しているうえ、有効態リン酸及び交換性カリウムの水準が高い傾向にあり、これも塩基のバランスが取れていない状況である。

福島原発事故で土壌に拡散したセシウム137を中心とした放射性物質の対策であるが、現在作土をはぎ取らず肥やした土壌をそのまま活用する方法として、ゼオライトやカリウム肥料が用いられている。その他に水和したセシウム137を吸着する素材としてナノ（10のマイナス9乗）レベルまで微細化したブルシアンブルーも有効な手段の一つとして紹介したい（独立行政法人産業技術総合研究所 平成23年8月プレスリリース）。

最後に生産者との信頼関係を構築する手段として土壌分析等で過不足する養分の把握を行い、施肥量を提案し実行することが大切である。いずれにせよ、安心して食べられる農産物は国民全体が望んでいることで適切な施肥を指導し、安心・安全な農産物供給に尽力することこそが我々の使命だ。



最近のコメ動向

今年の春先以来、相変わらず市中に流通する米穀が少ない。原料玄米を市中から調達せざるを得ない中間業者が、やむを得ず必要量を高値で購入する状況も変わらない。玄米の値上がり幅をそのまま精米・製品に反映させることは出来ないため、流通業者がそのギャップを負担し続けている状況だ。

全農の集荷・販売状況を見ると、最終集荷見込数量は約266万トン程度と22年産に比べ10%近く減少している。一方、5月末日の主食うるち米の契約数量は約238万トンであり、22年産の前年同時期比でほぼ同程度。相

対的に契約の進捗が進んでおり、市場のタイト感を受けて実需筋が玉の確保を急いだことが伺われる(右表参照)。

全農の21～23年産主食うるち米の契約・販売状況(6月末現在)

(単位:千トン)

	契約数量	出荷数量								合計
		～10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
23年	2,376	301	163	241	142	183	276	191	187	1,684
22年	2,381	222	139	180	151	193	315	216	201	1,618
21年	1,927	210	109	179	109	147	250	216	185	1,405
23/22	100%	136%	117%	134%	94%	95%	87%	88%	93%	104%
23/21	123%	143%	150%	135%	130%	125%	110%	88%	101%	120%

【出典:米をめぐる最近の情勢について(平成24年6月)】

【注】ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

この状況のなかで、6/26に実施された19

～21年産の政府米4万トンの入札販売は、原料玄米の手当てに苦慮していた業務用の実需者を中心に歓迎された。しかし応札率4.4倍という競争の結果、落札価格の加重平均は19年産12,671円、20年産13,992円、21年産14,872円、トータル13,633円(税別・置場)という業務用の水準としては高い価格となった。このように低価格帯の米穀の引き合いは強い。この一方で、新潟コシヒカリに代表される高価格帯のコメは、割高感から精米での販売が振るわないなどの理由により、6月以降、市中価格の値下がりが見られる。

国内産が高価格で推移していることから、既報(2012年3月13日号)のとおり価格競争が厳しい外食産業の大手企業の中には米飯の原料を外国産米に切り替えた所や、外国産精米を価格訴求力のある商品として店頭販売する量販店が出ている。

これらの外国産米は、国内の主食用市場に供給される可能性のあるSBS(売買同時契約)入札制度により輸入されたもので、近年は約10万トン程度の枠が設けられている。出来秋に市中価格が低くスタートした22年産米が出回っていた2010年度は予定されていた10万トンの輸入枠がわずかに3.7万トン程度の落札数量だったが、逆

に23年産米が高値であった2011年度のSBSは10万トンの枠全量が落札されている。つまりSBS米と国内の低価格帯の米はお互いに補い合う関係と言えるため、このまま国産米の価格が高止まりしていると、業務用市場において国産の低価格帯米が外国産米に切り替えられていく可能性がある。

MAC掲示板～人事異動～

日付	氏名	新	旧
7/1	吉野友隆	執行役員営業副本部長 兼)東京支店長	営業副本部長 兼)東京支店長
同上	山際 茂	執行役員特販グループ長	特販部長
同上	横尾兼一	シニアアドバイザー	(株)愛農(取締役社長)
8/1	佐々木浩二	福岡支店長	福岡支店

次の月曜日は「海の日」です。国民の祝日の中でも「春分の日」と「秋分の日」は、日付や○月の第○月曜日という風に決められておらず、前年の2月1日に日付が正式決定されるのをご存知でしたか？それぞれ3月と9月の20日頃と漠然と覚えていましたが、太陽の動きによって春分、秋分が毎年変わる為、1～2日の変化が起きるそうです。ちなみに、2012年は春分の日＝3/20、秋分の日＝9/22。2011年は3/21と9/23でした。

編集事務局：小田、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>